令和７年度　第２回
静岡市清水区地域包括支援センター運営部会　次第

日　時：令和８年２月５日（木）
　　午後２時00分から午後４時00分
会　場：清水保健福祉センター　３階　視聴覚室

１　開　　会

２　清水区地域包括支援センター運営部会長あいさつ

３　清水区高齢介護課長あいさつ

４　運営部会の流れ

５　地域包括支援センターの活動（令和７年度活動報告）について
　（各包括　発表３分、意見交換５分で予定しています。）
　① 港北地域包括支援センター
　② 興津川地域包括支援センター
　③ 両河内地域包括支援センター
　④ 港南地域包括支援センター
　⑤ 岡船越地域包括支援センター
　⑥ 高部地域包括支援センター
　⑦ 飯田庵原地域包括支援センター
　⑧ 松原地域包括支援センター
　⑨ 有度地域包括支援センター
　⑩ 蒲原由比地域包括支援センター

６　令和７年度　地域包括支援センター運営部会報告検討（運営協議会用）

７　連絡事項

８　閉会

令和7年度　清水区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市清水区 （ 港北 ） 地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 6 人)(4／1現在)　※定員･･･本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師看護師等	1人	その他	2人

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回	（第2回部会開催時点）
②ケース対応型地域ケア個別会議	6回	
③地域ネットワーク形成等(①･②以外)にかかる地域ケア会議	4回	

	（第1回運営部会）		（第2回運営部会）	
	令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1	生活支援コーディネーターと地域課題の解決に向けた取り組みの展開。 ・65歳未満の脳血管疾患発症者特有の課題に対する圏域地域ケア会議の開催		3/5辻･江尻地区協働居場所のボランティアと圏域の専門職にて圏域地域ケア会議を開催し、課題を共有。対象者が居場所活動のボランティアや参加者として利用し、役割や当事者の交流の場となり、居場所活動に新たな機能を持つことを確認する予定。	圏域地域ケア会議にて、居場所へ対象者が参加可能となった場合、対象者へ活用を促すために、圏域のCMに対し、辻･江尻地区協働居場所の周知活動を行っていく。
2	チームオレンジの活動実践 ・認知症独居高齢者の対応について事例検討やチームオレンジステップアップ講座の受講を行い、チーム員のスキルアップの機会を図る。	望月委員より CM、民生委員のシャドウワークについて あまり良い意味ではないが、どう言った内容か？ 金田委員から、シャドウワークについて 本来の役割を見直す時期になっており 時代が変わってきている。今、溢れている困りごとをどうするかを精査中と返答	第1回は8/18自宅でずっとミーティングにて、チーム員と圏域の専門職(薬剤師、居宅介護支援事業所、GH、介護サービス事業所、郵便局等)で認知症独居高齢者の事例検討を実施。お互いの立場でできることや連携できることを共有し、地域で暮らし続けるための支援体制を検討することができた。第2回は1/23に認知症声掛け体験を同メンバーにて行い、認知症役と声掛け役に分かれ体験し、意見交換を行ってチーム員のスキルアップを図る予定。	地域に根差した関係職種の参加により、事例検討がより深まり、対応の仕方や連携の必要性を確認することができた。次年度は、他のチームオレンジと活動について情報共有や意見交換を行ったり、他の認知症カフェの見学等を予定。
3	自宅でずっとミーティングにて、災害について地域住民や高齢者や医療等の関係機関と圏域地域ケア会議の開催。	杉山委員より 災害については、包括にも影響している。	10/15圏域地域ケア会議(自宅でずっとミーティング)を開催。辻･江尻･袖師地区の自治会、民生委員、地区社協等の地域住民、圏域の郵便局、薬剤師、居宅介護支援事業所、GH、介護サービス事業所等が参加。清水さくら病院に災害時の病院の機能や役割、病院の防災設備を説明してもらい、その後グループワークを実施。専門職からBCP計画をもとに災害時の動きを確認し、平時にできることを意見交換。自助･互助の大切さを改めて確認する機会となった。	病院や専門職がBCPをもとに災害時の動きを情報提供したことによって、自主防災訓練の見直しや中学生や若い世代とのつながりが大事である等自助･互助の大切さを改めて確認することができた。アンケートから、災害時のボランティア対応や公的支援について知りたいという意見や、定期的に話し合う機会を持ちたいという意見があったため、今後も災害に対する取り組みを継続していく。

令和7年度　清水区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市清水区（　興津川　）地域包括支援センター	職員	配置人数（定員：　5　人）（4／1現在）　※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人　清承会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師看護師等	1人	その他	0人

テーマ：　地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回
②ケース対応型地域ケア個別会議	3回
③地域ネットワーク形成等（①・②以外）にかかる地域ケア会議	3回

（第2回部会開催時点）

	（第1回運営部会）		（第2回運営部会）	
	令和7年度重点項目	委員意見	事業実績（見込み）	良かった点、課題、次年度展望
1	地域ケア会議の開催。 地域支援者（民生委員・S型ボランティアスタッフ等）を対象とした地域ケア会議を両地区1回以上開催。地域支援者の知識、対応力向上の支援を行うとともにネットワーク強化、拡充を図っていく。 興津地区：昨年度とは異なる介護保健施設（圏域内の介護老人保健施設やグループホーム）の説明、見学。 小島地区：圏域内施設に依頼し施設入所に関する説明会やグループワーク。	実際に施設の待機者はどのくらいなのか？（長期間待つのか、比較的すぐに入所できるのか？） ⇒特養・老健ともに待機者は時期により差がある。また、状態によっては希望してもは入れなかったり、多床室だと男性の空きがないことも。特養でもさほど待たずにタイミングよく入所できる場合もある。	興津地区：7/29興津地区民生委員を対象に介護老人保健施設の見学を通し、施設内の取り組みや役割、サービス内容について理解を深めた。 小島地区：小島生涯学習交流館にて民生委員対象に8/20開催。地域にある介護老人保健施設と介護老人福祉施設について施設職員より説明とグループワークを実施。3月に2回目を開催予定。	施設見学や施設職員とのグループワークを通して施設内の雰囲気や生活の様子について目で見て知ることができた。また、民生委員が地域住民からの介護施設に関する具体的な質問への対応ができ顔の見える関係性も構築することができた。民生委員の改選に伴い今後も圏域内の介護施設及び在宅支援事業所職員と協力しながら支援体制の構築を継続していく。
2	S型デイサービスの訪問、参加。 S型デイサービス全15会場を各会場年2回訪問、参加予定。包括の周知活動を行うとともに消費者被害等の啓発活動を行う。興津川包括独自の『まるけあ手帳』を配布予定。 地域資源カフェ（認知症、介護者、グリーフ）の周知活動。	◇まるけあ手帳が見やすくて良い。どんな項目があるのかを知るだけでも良い。できるところから・・・というアドバイスをしているのも良い。 ◇介護者カフェの参加人数はどのくらいか。どうやって周知しているか。 ⇒参加人数はその時々で差があるが定期的に参加の方もいる。包括職員から直接情報提供、S型デイなどを通してお知らせ、民生委員からのクチコミなどでお知らせしている。	1会場、年2回訪問し『消費者被害』についてチラシを作成、配布し啓発活動を行った。また、昨年度Sボラスタッフに配布していたまるけあ手帳を今年度は会員にも配布し圏域内にある社会資源の情報提供を行った。 地域資源カフェ：S型や当事者、CMに情報提供を行った。	各会場年2回訪問し情報提供や交流を通し包括の周知活動、個別の相談に繋がった。次年度も継続訪問。地域の実情把握に努める。包括職員が訪問時に行う啓発内容については今後検討していく予定。地域資源カフェについては引き続き継続的に訪問をしつつ情報提供していきたい。
3	『自宅でずっとミーティング』開催。多職種連携。 『自宅でずっとミーティング』を小島地区で開催予定。 地域住民と専門職との『顔の見える関係性』に努め、多職種連携、ネットワーク強化を図る。 内容は『認知症』をテーマにグループーワーク形式で行い、圏域内の居宅介護支援事業所にはグループワークでの司会進行を行って頂くよう働きかける。		龍津寺にて10/4開催。認知症をテーマに『知る』『感じる』『考える』の3部構成で行った。認知症キャラバンメイトによる認知症の説明、包括職員による寸劇。認知症家族の体験談を通じ認知症についての理解を深めた。また、自分達にできることは何か？を考え参加者全員に自分のできることを付箋に記載してもらい見える形にすることで認知症について考えるきっかけを作ることができた。地域住民と専門職が交流、グループワークを行ったことでお互いの顔の見える交流ができた。	認知症について、説明・寸劇・体験談の3つの内容で分かりやすく学ぶことができた。付箋に自分のできることを書き出し、身近な問題として考えるきっかけにもなった。住民と専門職が交流できたことも成果。次年度も同様の内容で会議開催を検討。小規模（自治会単位）での開催を目指し多職種連携、ネットワーク強化を図っていきたい。

令和7年度清水区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市清水区 （両河内 ） 地域包括支援センター	職員	配置人数(定員:3人)(4／1現在)　※定員･･･本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人　花園会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	1人	保健師看護師等	1人	その他	人

テーマ:　地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回	（第2回部会開催時点）
②ケース対応型地域ケア個別会議	回	
③地域ネットワーク形成等(①･②以外)にかかる地域ケア会議	1回	

	（第1回運営部会）		（第2回運営部会）	
	令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1	住み慣れた地域で自立した生活が維持できるように、フレイルの発生(悪化)を予防する。	フレイルの予防に栄養士を活用して貰えればと思います。	今年度は、福祉用具のサービス提供事業者に協力して貰い、難聴と補聴器についての話をS型の会場で実施して貰っている。現在まで3会場で実施しており、今後あと2会場で実施する予定である。また今年度も保健センターの職員と一緒に2年以上病院未受診、特定検診も受けていないという75歳以上の方のお宅を訪問し、実態把握に努めた。	補聴器が合わず買ってもそのままという方が多く居るが、そういった方からの質問が多く挙がり、好評だったので、来年度もフレイ予防に関する取り組みをS型の会場で行えればと考えている。
2	フォーマルな資源とインフォーマルな資源または既存の資源と新たに開発した資源を上手く融合させ、安心して暮らせるまちをつくる。	家と家の距離がだいぶ離れていると思うが、繋がりはどうなのだろうか？	1と2の取り組みにも関連するが、10月に開催した認知症サポーター養成講座を圏域内のグループホームの管理者にも受講して貰ったので、その方に講師になって貰い、2月からS型の会場で認知症予防に関する話をして貰おうと考えている。また、今年度も地域の子供たちが高齢者について関心や理解を示し、未来のまちづくりの一員になって貰えるよう福祉教育を行った。	今年度中に見守り体制を構築することは難しいと思うが、こういった活動を通して、協力者を増やして行きたいと考えている。福祉教育後、学校公開日に高齢者が訪問しやすいように、子供たちが自ら課題や対策を考えているとの報告が担任からあったことから、地域の一員としての意識付けに繋がっていると考えている。
3	たとえ認知症になったとしても、住みなれた地域で安心して暮らせるように、地域全体で認知症の方を見守れる体制を構築する。	総合病院との入退院時の連携はどうになっていますか？	地域全体で認知症の方を見守る体制を構築するため、今年度は地区社協のスタッフを中心に地域の方に認知症サポーター要請講座を受講して貰うことが出来た。12月に民生委員が大きく入れ替わったので、予定が合えば今年度中に民生委員と地域の保健委員に認知症サポーター養成講座を受講して貰おうと考えている。	認知症サポーター養成講座を受講された方が、自主的に近所の方の支援に当たってくれたりするケースも出て来ており、非常に助かっている。

令和7年度　　清水区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市清水区 （ 港南 ） 地域包括支援センター	職員	配置人数(定員:　6 人)(4／1現在)　※定員･･･本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	静岡市清水医師会		主任介護支援専門員	2人	社会福祉士	4人	保健師看護師等	1人	その他	人

テーマ:　地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回	（第2回部会開催時点）	
②ケース対応型地域ケア個別会議	2回		
③地域ネットワーク形成等(①･②以外)にかかる地域ケア会議	3回		

	（第1回運営部会）		（第2回運営部会）	
	令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1	テーマ「緊急時、災害時を視野に入れた支援の継続」 関係機関との連携を強化し、適切な支援が届くような体制づくり。 ･包括内協議の充実と職員の実践力向上 ･関係機関との役割分担 ･虐待防止の周知及び対応	(望月委員) 参考資料の訪問件数が下がっている理由は。 ⇒記録の仕方の見直しを行ったこと、清水地区など遠方の訪問の際は、他のお宅にも寄るなど業務改善を行ったためと考えられる。 (杉山委員) 件数の入力には静岡市の記入の仕方の決まりがあると思うので、年度始めに職員で見直すなどしてはどうか。 (丸山委員) 職員が7名で基準より1名多い。職員の採用と定着の工夫を教えてほしい。 ⇒1人の職員に業務が偏らないようにして負担を減らし退職しないように努めている。	①多問題ケースは随時可視化。月1回程度静岡市清水医師会相談室と合同でケース検討･検証を行い実践力向上に努めた。入院した方の家族支援や、身寄りのない独居高齢者の緊急時災害時の対応･逝去後のペット問題への支援に難航し、地域ケア個別会議の必要性に気づけなかったケースもあった。 ②高齢の精神疾患の事例では、障害支援機関等と都度情報共有し支援継続を図っている。利用者入院の際は、早期に病院相談員と在宅での課題を共有、役割分担を明確にし入院中から支援を継続。 ③圏域の介護支援専門員に虐待防止を呼び掛けた結果、ネグレクト疑いの相談が5件あり、問題意識が深まった。包括では勉強会と併せ虐待防止委員会を開催。事例検証で虐待対応終結の再確認をした。	【良かった点】 ①②父親と引きこもりの長女の8050世帯では、障害支援機関･生活支援課･民生委員との連携で、父親の緊急入院後も長女の在宅生活が継続でき、これを機に他者と関わりのない長女がネット通販以外と交流可能になった。 【課題･展望】 ①適切にケア会議が開催できる実践力向上を目指す。
2	「困ったよ」が発信でき、人とのつながりが持てる関係づくり。 ･自助、互助の大切さの周知 ･介護支援専門員との連携 ･生活支援コーディネーターへの働きかけ		①3地区の社会資源マップを地区役員や介護支援専門員などの関係機関に活用を依頼。入江･浜田地区の地域住民･多職種等参加の自宅でずっとミーティングではマップを自己紹介ツールとして使用。男性が集える活動の工夫や、認知症になると活動が途切れる問題点などの意見交換を行った。プラン型会議に民生委員の参加を依頼したことで、介護サービス利用後も地域住民とつながり続ける大切さを参加者が再認識できた。 ②主任介護支援専門員との連携では、金融機関や民生委員とのネットワークづくりとして地域の社会資源に視点を置いた。 ③生活支援コーディネーターと月1回話し合いの機会を持ち、地域ニーズ等の情報提供と課題を共有。ボランティア活動の広報や移動支援に関する検討を行ったが、具体的な実践はない。	【良かった点】 ①自宅でずっとミーティングでは多職種の方々が地域活動等を把握でき、医療職からは意識的に生活課題に目を向けることの意見をいただけた。個別支援では精神疾患のある高齢者に居場所スタッフ、通院先医療機関、追分ハウジング支援員と共に見守り体制を共有できた。 【課題･展望】 ①③認知症になっても活動可能な居場所までの移動手段の確保、利用につながるきっかけ作りを生活支援コーディネーターと共有、個別ケア会議への参加や同行訪問等を積極的に依頼する。
3	地域住民の認知症への理解を促す。 ･「みんなの認知症予防」の冊子を活用した個別相談 ･地域密着型事業所と地域の橋渡し ･認知症になっても役割を持ち生活できることを伝える		①3ヵ所の地域密着型事業所とは運営推進会議で具体的な避難計画の現状･課題を共有。参加した地域役員から、近隣住民も一緒に参加する避難訓練の助言をいただいた。 ②浜田地区では8月に40名参加の認知症サポーター養成講座開催。終了後アンケートでは、相談先の理解や接し方、カフェなどの地域活動への興味の声をいただいた。 ③月1回の渋川いこいカフェ(グループホームハーベスト主催)、年2回のオレンジカフェ(スターバックス主催)に伴い、地域住民や関係機関への周知を行った。結果、地域役員の認知症への関心が高まり、積極的な参加協力が得られた。 ④清水地区では、保健委員の次郎長マーケットでの広報活動に併せ認知症理解の啓発を協力依頼、新たに3件の相談が寄せられた。	【良かった点】 ②認知症サポーター養成講座は今後介護を担う年齢層も対象に、小中PTAの協力を得、10人の参加があった。 ④地区保健委員への依頼から認知症等の相談が寄せられた。 【課題】 ①残り2ヵ所の地域密着型事業所へ災害時の対応の働きかけ。 ④入江･浜田地区の保健委員の広報活動の一環として、認知症に関する研修を提案･協働する。

令和7年度　　清水区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市清水区 （ 岡船越） 地域包括支援センター	職員	配置人数(定員:　5　人)(4／1現在)　※定員･･･本来の配置基準で必要とされる人数								
法人名	社会福祉法人　恵和会		主任介護支援専門員	3人	社会福祉士	2人	保健師看護師等	1人	その他	人	

テーマ:　地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回	（第2回部会開催時点）
②ケース対応型地域ケア個別会議	3回	
③地域ネットワーク形成等(①･②以外)にかかる地域ケア会議	1回	

	（第1回運営部会）		（第2回運営部会）	
	令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1	ワンストップの相談窓口として、地域住民や関係機関に、包括の役割と活動の周知を図る。	【丸山委員】薬局に包括のチラシを置かせてもらう方法を知りたい。 【佐々木委員】薬剤師会に電話いただければ薬局に一斉連絡できる。	船越老人会の集いに2回参加、介護予防と包括の役割について説明。(6/10、12/18) 船越小学校の福祉教育授業を船越地区社協と協働で行った。 生活支援コーディネーターと協働で清水西高のボランティア授業に参加し、高齢者の課題と包括についての話をしている。 地区社協企画会議　岡地区12回　船越地区6回参加	生活支援コーディネーターとの連携を密に図れたことで、小学校、高校とこれまでより幅広い世代へ包括の役割を知らせることができた。結果、包括を知らない方も多くいるとの意見もいただいた。 次年度は地域活動への参加を継続するとともに、回覧板作成や異なる世代へ周知の場を作る。
2	地域活動に参加し、介護予防の情報を発信する。 適切なケアマネジメントの実施。 介護予防ケアマネジメントから地域の課題を抽出し、自立支援と重度化予防を図る。	【杉山委員】ボランティアの高齢化により次の担い手がいない課題があるが、何か対策しているか。 →岡生涯学習交流館での生活支援コーディネーターの会議に出席している。コーディネーターと連携し働きかけを検討している。	老人センター運営推進会議　年2回参加。 S型13か所計52回、亀ちゃんクラブ4か所16回参加、認知症カフェへ3回参加し介護予防の話をしている。 自立プラン型会議は年3回実施。 ケアマネ連絡会は年2回実施。7月はBCPについて、3月はケアマネが担っているシャドーワークから地域課題について考える。	地域活動への参加は習慣化し、親しく声をかけていただいている。引き続き介護予防について発信をしていく。 圏域ケアマネに地域の課題について意識してもらうと共に、専門職からみた課題について共有していく。
3	在宅医療介護、福祉の関係者の顔の見える関係作り、ネットワークの強化。 困窮･8050等　多重、複雑化する問題に対応できるよう相互に相談し、協働する体制づくりを目指す。		船越地区自宅でずっとミーティングを11/18開催。事例を用いて地域の課題について話し合った。岡地区では2/27開催予定。各活動の内容紹介と現在の課題を共有する。　岡 船越全体の会議は社協が開催を予定している。 ケース対応では多重･複雑な相談も多く、重層会議で1件検討している。	船越地区では顔を合せの場の場として定期開催の声が上がった。 岡地区ではそれぞれの活動の課題を共有し、重なる点を次年度の議題とする予定。 ケース対応を通し、多機関との繋がりができているが、繋ぎ先に苦慮することもある。各機関との繋がりを所内で共有していく。また新たな機関との連携を図っていく。

令和7年度　　清水区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市　清水区　高部地域包括支援センター	職員	配置人数(定員:　4人)(4／1現在)　※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	車かい福祉法人 清水福祉会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	1人	保健師看護師等	2人	その他	人

テーマ:　地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回	(第2回部会開催時点)
②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回	

	(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
	令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1	多職種連携の取り組み強化する 飯田庵原圏域と連携し厚生病院を中心に開催している他職種連携のネットワーク(モデル的圏域ケア会議)の開催に際し、圏域ケア会議前にケアマネや地区社協、地区民児協などから意見を伺う場面を設けるとともに、開催後に話し合われた内容を議事録などを使って報告する場をつくっていく。	金田委員 ボランティアの活躍が目立つ。サポーター側の継続が難しいと言っていたが、有償化はしないのか？ →地域住民の話し合いでも有償化の話は出るが、高部では無償でやっていこうという意見が根強い	モデル的圏域ケア会議については、今年度の開催はできていない(今年度の開催は難しい)。年度当初にケアマネや地区社協、地区民児協から意見を伺う機会は設けることができた。 モデル的圏域ケア会議の開催はできなかったものの、圏域内外の多職種と連携して支援を行うことができた。	モデル的圏域ケア会議の開催ができなかったことは課題。ケアマネや地区社協、地区民児協から意見を聞く機会は継続し、モデル的圏域ケア会議の開催につなげる。
2	民生児童委員との事例検討を継続する 毎月の民生児童委員会において、事例検討を行ったり、個別の事例について民生委員と個別の情報共有をする場を作る。 また、民生委員とケアマネをつなぐ連絡会を開催をめざす。	佐々木委員 拒否がありボランティアが関わりにくいケースもあると思う。そのような排他的な方にはどのように接しているか？ →セルフネグレクトのような方はなかなかお助け隊に繋げられないケースもあるのが現状。 個々に対応している。	民生児童委員は、11月に改選があったため、1月の定例会において、地域包括支援センターの役割などを説明する機会を得た。新任の委員ともこれまで同様に双方向で情報提供ができるようにしていきたい。	ケアマネとの連絡会については、改選時期もあり、11月からの新会長と令和8年度に開催することを確認した。
3	地区社協や民児協からの相談を地域ケア会議につなげる 地区社協や民児協とはこれまでどおりの関係を維持できるようにする。相談の中には、地区社協や民児協、本人だけでなく近隣住民などと連携する必要がある事例があることから、個別事例の地域ケア会議の開催につなげていく。	澳塩委員 ボランティアとして活躍したい方の中には包括を知らない方も多い。SNSなどを活用し窓口がわかるようにした方が良い。 →SNSを取り入れた施設からは紙よりSNSの方が受けが良いと聞いた。今後活用して行けたらと思う。	地区社協や民児協、障害の相談機関、法律の専門家、ケアマネジャーなどが集まり、高齢者と障害を持つ子(兄弟)の支援について話し合い、各々の機関の役割りを確認したり、担当者が顔を合わせて世帯全体を包括的に支援する方向性の検討をおこなうことができた。	地区社協や民児協だけでなく、様々な機関との連携をつうじて、より一層対応する力を高めていきたい。

令和7年度　　区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市　清水区　（ 飯田庵原 ）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員：　7　人)(4／1現在)　※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	セントケア中部株式会社		主任介護支援専門員	0人	社会福祉士	1人	保健師看護師等	2人	その他	0人

テーマ：　地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回
②ケース対応型地域ケア個別会議	0回
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回

（第2回部会開催時点）

	（第1回運営部会）令和7年度重点項目	委員意見	（第2回運営部会）事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1	三職種の特性を意識し課題解決のスキルを全体で高め、問題の早期解決を目指す。 ・困難ケースは複数の職種で関わり、定例ミーティングや朝礼時に情報共有や相談を行い、一人一人の問題解決スキルを向上させる。 ・包括だけでは解決できない複雑な相談に対し、それぞれの職員が他の相談機関と目標を共有し役割分担をしながら対応できる体制ができる。	**(小林委員)　地区祭りでアンケート実施とあるがどのような内容か？ →子どもと大人に分け、高齢者との同居状況、認知症の理解や対応、包括の認識度などを調査** **(澳塩委員)計画書に担当地区の人口は減るが世帯が増えていると記載があるがその理由をどう考えているか？ →庵原地区は若い人が地元で仕事がなく家を離れる人がほとんどと聞いており、少人数の世帯が増えており高齢夫婦や高齢単身の世帯が増えていると捉えている** **(望月委員)3名の職員が長期休養となっており職員不足がみられるが原因は？ →20・30代女性職員が3名、同時期に出産のため長期休暇取得　その後3名とも退職となり職員募集しているが採用に結びつかない** **(杉山部会長)地区祭りのアンケートで10年前のデータと比較する事で地域の変化などデータ蓄積できることは良い事　アンケートを継続していただきたい**	・困難ケースについては二人体制で支援担当となり、ミーティングや朝礼時だけでなく、その都度、状況確認や支援方針について共有することができた。一人担当であってもその場で情報共有し事例検討する事で解決に向けて進むことができた。 ・包括内では解決できないケースに関して、他機関と情報共有し役割分担をして支援に繋げることができた。	・　重層的支援体制整備事業を活用したケース(終結済)を通し、関係機関と顔の見える関係ができ、他のケースにおいても相談しやすい関係づくりができた。 ・介護福祉保健の知識経験等だけでは解決できない処遇困難事例に対し関係機関(司法・警察・精神保健等)と顔の見える関係や研修をを通してスムーズな課題解決に繋げたい。
2	地区役員、民生委員や幅広い世代に対し「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症に対する理解を広げていく。 ・今年度、新しく民生委員になる方や地区役員を対象に認知症サポーター養成講座を開催。認知症の方への理解と対応の周知をはかる。 ・小学校の福祉授業で、S型デイサービス交流前に高齢者の素晴らしい所、接し方の注意についてクイズを交えて楽しく理解してもらう講座を今年度も行う。		・庵原小5年生、飯田東小4年生、飯田小4年生に対し福祉授業の実施。高齢者についての講座を行った。 ・新民生委員地区役員を対象とした認知症サポーター養成講座は現時点では行えていない。 ・飯田中学校1年生に認知症サポーター養成講座を実施。	・圏域の小学校中学校の教育方針が福祉について力を入れているため、子供たちも興味関心を持ってくれている。 ・新民生委員を対象とした認知症サポータ養成講座の実施を次年度行っていく。
3	地域活動に参加し地域住民との交流をはかり地域にある課題を情報収集し、行政や生活支援コーディネーターなどと解決に向けた協議を行う。 ・S型デイサービス(飯田地区12箇所、庵原地区7箇所)、居場所、でんでん体操教室、介護予防教室に参加し地域や地域住民の困りごとを情報収集。包括だけでは解決できない事は行政や生活支援コーディネーター、医療や介護サービスと連携をはかり解決に向かう。		・S型デイサービスに参加し、包括の紹介・食事内容や介護予防等の講話等を実施。 ・地域課題、情報収集を行い行政・生活支援コーディネーターとの協議については行えていない。 ・いいだまつりに参加。チラシ配布と、昨年度実施した内容より簡潔なアンケートを実施。参加人数子供122人、大人123人計245人であった。大人の包括周知率は67.4%子供の高齢者同居率は27.8%であった。 ・介護者家族の会(いちごの会)に、作業療法士をお招きし高次脳機能障害セミナーを実施することで学習の場を設けた。	・S型デイサービスではボランティアも含め高齢者や介護の相談は包括ということが周知されつつあるため、参加してく。 ・生活支援コーディネータとの関りが少なかったため、今後2か月に1回程度のミーティングを設ける予定である。 ・介護者同士、住民同士が交流し、介護に役立つ情報や知識を深めることができるよう支援をしていく。

令和7年度　　区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市清水区 （ 松原 ） 地域包括支援センター	職員	配置人数(定員:　7 人)(4／1現在)　※定員･･･本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	静岡市社会福祉協議会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	3人	保健師看護師等	1人	その他	1人

テーマ: 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回	（第2回部会開催時点）
②ケース対応型地域ケア個別会議	4回	
③地域ネットワーク形成等(①･②以外)にかかる地域ケア会議	0回	(2/20開催予定)

	（第1回運営部会）		（第2回運営部会）	
	令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1	①包括について、関係機関や住民への周知活動を行う。	①金田委員　社会福祉士が増えて、社会福祉士の領域が強い支援ができている印象である。 個別の地域ケア会議事例が多職種と連携しているが、どのように連携できたのか？ 包括回答　一事例目は総合病院よりつながったが、障害特性が強かったため包括が障害分野の介入を依頼した。二事例目は保護観察官より相談があり、福祉支援者を集めた。	･松原包括チラシを、S型デイサービス19か所、病院や自治会へ配布、駒越地区社協カレンダーへ広告掲載を実施し包括の周知を図った。 ･毎月、民生委員児童委員協議会4か所、地区社協企画委員会4か所の定例会に参加し、要約した事例の紹介や、事例に基づく制度説明を行った。 ･折戸住民福祉講座や、折戸市営団地相談会に参加し、包括業務や、介護申請について周知を行った。 ･不二見小学校にて、生活支援コーディネーターと共に福祉講座を行った。	民児協や地区社協へ、毎月情報提供する中で、介護保険以外の相談対応もしていることを周知できた。 団地での出張相談会は、行政担当課や、生活支援コーディネーターと連携し、今年度開催地で継続、更に他の団地でも開催できるよう働きかけたい。
2	②権利侵害、虐待、成年後見制度、消費者被害などの早期発見と予防の啓発、制度利用への支援を行う。	②望月委員　折戸地区は地域特性として大変に感じているか。 包括回答　大変な先入観はない。 大石委員より(折戸地区企画委員長)(清水地区社会福祉協議会連絡会副会長)高齢化率は高い。 市営住宅、学校と若者も高齢者もいる。 昼と夜で様子がかわる。大変な地域という認識ではある。	･S型デイ、民児協、地区社協の定例会、自治会回覧で、特殊詐欺や消費者被害防止の注意喚起を行った。 ･高齢者虐待については、民児協、地区社協の定例会等で、相談事例をもとに早期発見の視点について共有した。 ･成年後見制度の申立支援や、日常生活自立支援事業利用までのつなぎ、制度利用中の諸問題に対する対応を、行政、後見人や日常生活自立支援事業専門員と連携して行っている。	成年後見制度、日常生活自立支援事業へつなぎ、その後の協働を通し、連携強化を図りたい。 権利侵害と孤立の連鎖を防げるよう、住民や関係機関への啓発活動を継続する。
3	③障害支援機関とケアマネとの連携強化、民生委員とケアマネとの連携強化を図る。		例年開催している、主任ケアマネと障害相談支援機関との合同勉強会を12月に行った。 2/20開催予定の圏域ケア会議は、圏域内ケアマネ、障害相談機関2か所、民生委員の参加により、連携強化を図る予定。 圏域内主任ケアマネ連絡会、関連制度(動物の飼い方、終活、防災)の講座を開催しており、静岡市立清水病院リハビリ専門職による講座も予定している。	圏域内の障害相談支援機関と、ケアマネとの勉強会を継続する事で、障害制度から介護保険制度への移行時に連携が取りやすくなっている。 次年度は、勉強会参加対象を、主任ケアマネ以外にも広げたい。

令和7年度　清水　区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市清水区　（ 有度 ）　地域包括支援センター	職員	配置人数(定員:　6人)(4／1現在)　※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人恵和会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師看護師等	4人	その他	1人

テーマ:　地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回
②ケース対応型地域ケア個別会議	1回
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	2回

(第2回部会開催時点)

	(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
	令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1	医療・介護・福祉関係者との連携の強化		・「自宅でずっとミーティング」を2回開催。今年度は防災をテーマに開催した。医療・介護・福祉の関係者の方を中心に出席いただいた。 ・1回目は12/10静岡市危機管理課の方に講師として「静岡市の防災対策」をテーマに講義いただいた。 ・2回目は1/28に「自分の強みを他者のために」をテーマにグループワークを中心に開催した。	良かった点:連携会議を開催するための打ち合わせを通じて、地域づくりを行なう上での大切な部分や目指すべきことが何かを圏域の関係機関と共有することができた点。 課題:圏域の介護事業所等にも地域づくりに参加いただきたいが、人員不足等で積極的な関りが困難な可能性があること。 次年度展望:関係機関同士が協働し連携会議やイベント等を開催し、交流機会を継続するよう働きかけ等を行っていく。
2	幅広い世代に高齢者や認知症やその対応についての理解を深める	≪部会長杉山委員より(社会福祉士会)≫ Q:認知症高齢者徘徊訓練を実施したとのことだが、参加者の意見や参加者の年齢は？ A:年齢層は20代から80代、60代が最も多く、男女比は同等。参加者を6つのｸﾞﾙｰﾌﾟに分け、事前に決めていた場所で実施した。炎天下での開催のため、屋外での活動は15～20分程度で行った。 ⇒≪部会長杉山委員より(社会福祉士会)≫ 大学生の参加もあり事業計画に即していると思う。	・7/5地区社協と生涯学習交流館の共催事業である認知症高齢者徘徊訓練開催に関して、企画と当日の進行等の支援を行なった。認知症サポーター養成講座とセットで開催できた。 ・9/29・10/1は有度第一小、10/23は有度第二小の小学校4年生に福祉教育の授業を行なった。内容は認知症と認知症高齢者への接し方について、クイズや寸劇等を使い行なった。	良かった点:昨年よりも幅広い世代に伝えることができたこと。福祉教育に関しては終了後のアンケートへの質疑応答、福祉教育を掲載した包括だよりを小学校への配布等したことで、包括の啓発にも役立てられた。 課題:関心のない世帯や50歳代以下の年齢層への周知活動を行なうこと。 次年度展望:学校関係や単位自治会への働きかけを行ない、啓発の機会を増やす活動を行なう。
3	インフォーマルサービス利用の促進と開拓		・地域の福祉団体主催の大学生が中心のボランティア団体の集まりに今年度2回参加した。ボランティア団体の活動内容や代表者との交流を行なった。	良かった点:新たなボランティア団体と交流を持てた点 課題:ボランティアと利用者のニーズに違いがあり、マッチングをうまく進められなかった点 次年度展望:さらに多くのボランティア団体と交流し、現在よりも多くボランティア団体を把握すること。

令和7年度　　清水 区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市清水区(蒲原由比)地域包括支援センター	職員	配置人数(定員:　6人)(4／1現在)　※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人　静岡市社会福祉協議会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師看護師等	2人	その他	1人

テーマ:　地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回	(第2回部会開催時点)
②ケース対応型地域ケア個別会議	回	
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	回	

	(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
	令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1	個別や地域の課題を幅広く関係者と共有することで、高齢者のその人らしい生活理解し支え合えるチーム作りを強化する。 ・その人らしく住み慣れた地域での生活を継続できるよう、毎朝の所内ミーティングと個別地域ケア会議による話し合いを徹底する	望月委員より 蒲原と由比は一つの圏域となっているが生活の価値観など地域性は違いがあるがその特性をよく踏まえ活動している。援助にあたって戸惑う面もあるだろうが個別性の認識で対応していってほしい。	地域ケア会議開催には至らなかったが、個別事例についてはその都度所内ミーティングにて協議し関係機関や民生委員・近隣支援者と連絡・調整を密に行って、各所と現状の共有を継続することで自宅での生活の継続が図れている。 またそうした関りから、担当ケアマネからの報告や相談もつながりを持つことができている。世帯支援しているケースの個別会議を準備中。	良かった点:ケアマネ・サービス事業者・医療・警察等圏域内の関係機関と容易に相談ができる関係ができており、障害相談機関も含めタイムリーな連携がとれた。 課題:地域ケア会議としての場の開催ができなかった。個別からの積み重ねの分析にたどり着けなかった。 次年度展望:地域課題解決に向けて圏域ケア会議を広げていきたい。
2	・自立支援プラン型個別ケア会議から上がってきた地域課題(当事者会・移動手段)をケアマネや生活支援コーディネーターと共有し、さらに事例を積み重ねながら対応策を考える。	丸山委員より 当事者会はどのようなものがあるか？ …現在しっかりと組織されたものはないが、買い物難民に対し移動スーパーを資源としてよりどころとしてもらうなどの働きかけを行っている。 →地域の課題をこれからも解決に向け尽力してほしい。	移動手段について、生活支援コーディネーターと情報共有を図り、買い物支援は移動販売の調整を継続している。路線バスの廃線に関し蒲原地区社会福祉協議会と通院支援も含めた在り方について継続検討をしているが、運転の担い手確保・車等の費用負担や管理についての課題対応が難しく対策的には結論には達しないが、互いに課題を共有し話し合うことができている。また新たに生活習慣病の自己管理への取り組みとして、専門職が地域に向けてできることについて検討中。	良かった点:自立支援プラン型会議の積み重ねの中で、離職前からの健康意識・自己管理意識の向上の必要性が上がり、参加した医療職より地域課題として共に活動する前向きな意見が引き出せた。 課題・次年度展望:地域課題の分析や深堀を所内で行い(モニタリング・客観的資料の収集など)、課題解決に向けたケア会議への展開をしていく。
3	・ケアマネと支え合い活動等の担い手と課題検討の場をもち、資源の活用によるつながりの活性化と、高齢者が役割意識をもって地域活動へ参加することを促すことで介護予防や認知症になっても支え合える関係構築につなげる。		地域向けに認知症予防の講座開催やS型ボランティアへの支え合いの働きかけを研修や交流会を通じて行った。民生委員とケアマネが話し合える関係づくりのために合同勉強会を1回実施。支え合いの担い手の確保が課題でもあり、人材育成講座を生活支援コーディネーターと協働で開催予定。2月に蒲原・由比地区のそれぞれの活動に関する情報交換の場が計画されており、それぞれの生活支援活動の現状報告を3月主任ケアマネ連絡会で共有予定。	良かった点:支え合い人材育成講座開催あたり予防支援の対象者を誘い出すなどの包括内の視点も広がり、地域の活動者や生活支援コーディネーターとの連携・相談も深まった。認知症になっても支え合える地域作りについては、チームオレンジとしてS型などの居場所関係者と継続して取り組めた。 次年度展望:生活支援コーディネーターと合同会義の定期開催や老人センター等の地域資源との関りをより深めて予防的活動につなげる。